

飛鳥資料館 第12回写真コンテスト 「飛鳥の木」

今年も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、密を避けた行動が求められています。いっぽうで、飛鳥の自然はいつもと変わらず季節とともにその姿を刻々と変化させています。そこで今回は、飛鳥の自然を代表する風物の一つである「木」をテーマに、写真コンテストを開催します。

明日香村は、村面積の約65%を森林が占めています。甘樫丘、栢森、真弓等の木の名前のついた地名や、槻木の広場や両槻宮等の『日本書紀』に登場する名称からは、飛鳥の木と歴史のつながりを感じます。

今では、村に生える木々は、その大半がスギやヒノキの植林となっていますが、少し前にはクスギ等の広葉樹の森が広がっていました。扇状地の地形を生かした果樹園、薪炭の材料になった樹木。飛鳥の木は、飛鳥の人々の暮らしとも繋がってきました。

遺跡のかたわらに、集落のまわりに、古寺の境内に、すくくと生えた飛鳥の木。第12回写真コンテストでは、「木を題材とし、自然と人々の営みが一体となった飛鳥の魅力が伝わる写真」をテーマに作品を募集・展示します。

(都城発掘調査部 西田 紀子／飛鳥資料館 石田 由紀子)

応募締切：2021年6月30日(水)必着 展示期間：2021年7月16日(金)～9月12日(日)

来館者投票期間：2021年7月16日(金)～8月29日(日)

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)／休館日：月曜日(月曜が休日の場合は翌平日)

※8月9日(月)は開館、8月10日(火)は休館

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問い合わせ：☎0744-54-3561



平城宮跡資料館 夏期企画展「奈良を測る ―森蘊の庭園研究と作庭―」

森蘊(もり・おさむ)は、奈良文化財研究所の初代建造物研究室長を務めた庭園史家・作庭家です。地形実測にもとづいてかつての空間を復元的に考察するという、歴史地理学的手法を庭園研究に援用し、その研究の進展に大きく貢献しました。また、長い年月のうちに遺跡と化した庭園の発掘調査から復元整備までを手掛け、文化財庭園の修復・整備の方法論の礎を築きました。さらに、これらの調査研究の経験からの発想による作庭活動もおこなっており、奈良をはじめ各地にその作例が残っています。

奈良文化財研究所では、森が奈文研に在籍した当時の図面等の研究資料を所蔵しています。この度、資料の整理が一段落したことを受け、これらのうち、奈良所在の遺跡・庭園に関する資料を中心に展示をおこない、森蘊の庭園研究と作庭に関する業績を紹介いたします。

(文化遺産部 高橋 知奈津)



主催：奈良文化財研究所／共催：京都産業大学

会期：2021年8月7日(土)～9月12日(日)

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)／休館日：月曜日(月曜が休日の場合は翌平日)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問い合わせ：☎0742-30-6753(連携推進課)

■ 記 録

文化財担当者研修

○古文書歴史資料調査基礎課程

5月31日(月)～6月4日(金) 10名

○土器・陶磁器調査過程

6月14日(月)～6月18日(金) 10名

○建築遺構調査課程

6月21日(月)～6月25日(金) 8名

第126回公開講演会

オンライン配信

6月25日(金)12:00～6月28日(月)12:00

飛鳥資料館 ミニ展示

4月23日(金)～5月16日(日) 535名

「新収蔵品紹介 ―「呉」と書かれた瓦―」

※「新型コロナウイルス感染症 奈良県緊急対処措置」にもとづき、下記施設を臨時休館・閉室いたしました。(5月2日(日)～6月20日(日))

飛鳥資料館

平城宮跡資料館

藤原宮跡資料室

本庁舎図書資料室

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール koho_nabunken@nich.go.jp

発行年月 2021年6月